

手根管症候群

だれでも、体のどこかがしびれたりすると不安になる。さては神経の病か？脳の病気では？と落ち着かない。

48歳のA子さん。だいぶ前から、朝方に、主に右側の指のしびれに気付くようになった。時には痛みが走る。でも、手を振っていると消えてしまうので、様子を見ていた。

が、知人が脳梗塞になった。症状は、手のしびれだ。と知って、「まさか、私も」と大騒ぎになった。でも、病気の経過を聞いただけで、脳梗塞は否定できる。頭ではなく、手首の病気の「手根管症候群」だろう。

手根管症候群のしびれは、手の指に広がる正中神経の障害である。手根管という正中神経の通り道（手首の内側）が狭くなって起きる。手をよく使うひとや中年の女性に多い。

初めは、人差し指や中指がしびれるが、やがて、小指と薬指の外側半分を除く3本半の指がしびれるようになる。手の甲はし

びれない。進行すると、親指の動きが悪くなって、ものをつまんだり、ボタンがかけにくくなったりする。

手根管症候群によるしびれは、突然起きるものではない。いつの間にかしびれていて、少しずつひどくなっていく。一方、A子さんの心配する脳梗塞や脳出血では、しびれは突然起きる。

しかも、限られた指だけではなく、手全体がしびれる。また、頭の病気によるしびれは、両側に起きることはない。原則、片側である。もっとも、脳腫瘍などでは、症状が少しずつ進行することもある。だが、手を振っていて、しびれがなくなることはない。

と、何度説明しても、A子さんの不安はなくなるらない。ま、瓢箪から駒やうしろいともある。まずは、頭を調べるが。異常のないことを確認してから、整形外科へ紹介しよう。手首の手術が必要になることもある。

（石黒修三 しいしほろクリニック・脳神経

外科専門医…1/18 北國新聞掲載）